

黙示録 13 章 8 節-16 節 スタディーガイド

★ 黙示録 13 章 8 節-10 節

地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。耳のある者は聞きなさい。とりこになるべき者は、とりこにされて行く。剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。ここに聖徒の忍耐と信仰がある。

8 節「地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。」

これは、全知全能の神様が、誰がイエス様を信じるようになるのか、よくご存知の上で「小羊のいのちの書」に名前を書き記されていると思われます。

この書に、名が書き記されていない者は皆、反キリストを神のように拝むようになるでしょう。ダニエル書 9 章 27 節で「荒らす忌むべき者が翼に現れる」と預言されているように、神殿を荒らす忌むべき者であるサタンを父なる神とし、自らを神の子として、彼は世界中の人々が彼を拝むように強制するということが成就します。

9 節「耳のある者は聞きなさい。」

黙示録 2 章と 3 章に挙げられた 7 つの教会すべてに、「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい」ということばが語られました。

しかし今回は、教会へのメッセージにとどまらず、全人類に対して、耳のあるものは神様のみことばを学んで聞きなさい、と語られています

10 節「とりこになるべき者は、とりこにされて行く。」

それぞれの自由意志によって、とりこにされて行くということです。

10 節「剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。」

自分の行動をそれぞれ自ら刈り取らなければなりません。

10 節「ここに聖徒の忍耐と信仰がある。」

聖徒たちは、自由意志や自分の行動により結果を刈り取るのではなく、一方的な憎しみによって苦しみを受けるため、忍耐と信仰で耐えるしかない時代です。



黙示録 13 章 11 節

また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。

「また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。」

地から上って来ていますから、普通の人間であると考えられます。

「小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。」

小羊のように優しく振る舞い、サタンが人々を惑わすように、簡単に人々を惑わすような語り方をする人物であると考えられます。



黙示録 13 章 12 節—13 節

この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行った。

12 節「この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。」

反キリストが、神の子である権威と世界の支配者である権威、そして、聖徒たちに打ち勝つことが許されている権威などを力強く働かせる助け人となることを語っています。

12 節「また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。」

この獣は偽の聖霊の働きをして、地に住む人々がますます熱心に反キリストを拝むように働きます。

ここで、偽の父なる神、偽の子なる神、偽の聖霊という、偽の三位一体がそろいました。

13 節「また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行った。」

この獣は、ただ反キリストを応援するだけの者ではなく、大きな奇跡を行って、人々を惑わします。

★ 黙示録 13 章 14 節－15 節

また、あの獣の前で行うことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。

14 節「あの獣の前で行うことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし」
火を天から地に降らせるようなしるし以外に、反キリストの前でいろいろな奇跡を行います。

反キリストを生ける神ではないと思う者は、聖書を信じる者だけになるでしょう。

14 節「剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。」

神様は宇宙全体に存在されますが、サタンも反キリストも一箇所にしかいることができません。そのゆえ、彼の偶像を作って世界中に置き、エルサレムの神殿の中にも彼の像が置かれることでしょう。

15 節「それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。」

現在のテクノロジーでは容易なことで、カメラを設置し常に監視することができます。また、衛星を通して世界中を見ることができる時代ですから、ものを言うだけではなく、すべて見通すこともできるでしょう。

誰が獣の像を拝んでいないかが分かるゆえ、聖徒たちを見付けるのに良い方法でしょう。

★ 黙示録 13 章 16 節

また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。

すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた

家の中にいる者が、獣の像を拝んでいるか拝んでいないかは分かりません。そこで、すべての人々に刻印を受けさせるようになります。

この刻印について、多くの神学者が諸説述べており、一番多い説がコンピューターチップです。

1980 年前後から、サンダース博士と 100 人の研究者により、ルーセント・テクノロジーという会社で、クレジットカードと同じ役割をするが、紛失しないよう体内に入れることができるコンピューターチップの研究が始まりました。

体内に入れるチップは、取り出さずに外部から情報更新ができるよう作らなければならず、リチウム電池を使い、細長い米粒ほどの大きさにしました。

しかし、電池の充電方法が最も大きな課題となったため、温度の変動によって充電できるものが開発されました。そして、最も体温の変動が起こる部位を調べた結果、手の甲と額の生え際であることが分かりました。

すでに、動物の登録などで実用化されていますが、人間の皮膚に適合せず腫瘍ができる危険性があり、長年、人体には使用されませんでした。しかし近い将来、世界中で人体への実用化が始まると考えられます。

このようなコンピューターチップは、反キリストが現れる前に世界中で使われるものだと思います。これは獣の刻印ではなく、恐れる必要はありません。クレジットカードのようなものです。

近代テクノロジーにより自らを全能にしようという試みであり、人々に刻印を受けさせることで、家の中にいる者も隠れている者も、獣の刻印があるかないかを判別されてしまいます。

◆MEMO◆



OMEGA MINISTRIES
ΩMEGA BIBLE STUDY